

行くだけじゃ面白くない!

大人の 「ひねり旅」 指南



第7回

「こうなるはずじゃなかった…」
トラブルを避けるためには
知ることが、最大の防御!

DiTHi (ディシー) 代表
観光ホスピタリティコンサルタント

石田 宜久

URL <http://www.dithi.net>

E-mail info.contact@dithi.net

これまでは、旅の方法を中心に
お伝えしてきましたが、旅とはス
ケジュール通りのことが起きると
は限りません。「こうなるはずじ
ゃなかった…」は旅に付き物です。
もちろん、事件や事故に巻き込ま
れるのは御免ですし、せっかくの
旅で病気や怪我に見舞われるのも
困りものです。その他にも、旅で
の仰天トラブルは起こり得るもの
です。今回は「知ることが、最大
の防御」というテーマで、海外旅
行におけるトラブルの傾向と対策
についてお伝えします。

あるあるトラブルを回避

旅のトラブルの大半は、旅行に
おける「あるあるトラブル」が占
めています。

- ・パスポート忘れ
- ・ロストバゲッジ
- ・体調不良
- ・水、食あたり

「パスポート忘れ」は自己責任で
すが、到着後の飛行場で預けたは
ずの荷物が出てこない「ロストバ
ゲッジ」は頻繁に起きます。この

様なトラブルをはじめ、特に注意
したいのが「体調不良」です。

せっかくの旅、少しくらいの体
調不良なら予定通り行きたいのは
分かります。しかし、体調が万全
でない場合は控える様にするのが
正解です。重症化した時、迷惑が
かかるのは同伴者です。

また、多少の薬ならホテルや宿
で処方してもらえらと思つたら大
間違いです。アレルギーなどの問
題があるため、基本的には薬を出
すことを禁止されています。もし
不安があるのなら、自分で用意
しましょう。胃腸薬や頭痛薬もし
かりです。

そして、薬を飲むのに必要な
「水」もです。日本の水は世界で
も群を抜いて衛生的できれいだと
いわれています。特に海外旅行先
では、通常、日本で口になっている
水よりも質が落ちることを認識し
ておきましょう。基本は、ペット
ボトルの水を買って飲むようにし
ましょう。

また、旅先で軽登山やハイキン
グをした際に、つい生水を口にし

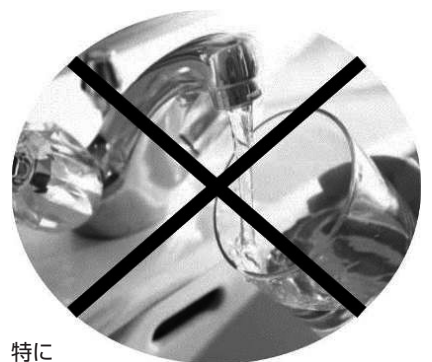
てしまいがちですが、これも注意
しましょう。

あるあるトラブルは、ちよつと
した「大丈夫」が引き金になりま
す。知らない土地へ行くときは臆
病なくらいが丁度良いものです。

トリプルチェックと違法

旅の前段階で、ある程度の知識
を身に付けておくことがトラブル
回避の第一歩です。

最近では、ガイドブックや旅雑
誌にも、必ずトラブル回避のため
のコナーが設けられています。
旅をする際には「いくつかの情報
を総合的に見るのが大切」だと
以前にもお伝えしましたが、今号



特に
海外旅行先での
生水には要注意!!

旅先で注意、世界びっくり法律！

●アメリカ・ルイジアナ州

日本でも一時期問題になった、ズボンを通常より低い位置まで下げて履く「腰パン」で、約1万7千円の罰金

●香港

思い出品はNG！砂浜の砂を一粒でも持ち帰ると約3万円、または6ヶ月の禁固刑

●上海・シンガポール

日本人はやってしまいがち。電車の駆け込み乗車で約4万円の罰金

●イタリア

「ローマの休日」再現はNG！スペイン広場でアイスを食べると約2万円の罰金

●イギリス

飲み過ぎに注意。パブで泥酔したら約14万円の罰金

のトラブル回避策でも、複数のソースから情報を得ておくことを推奨します。可能であれば、ダブルチェックよりもトリプルチェックをしておきましょう。「郷に入っては郷に従え」の言葉通り、自分にとっては当たり前のことが、旅先では非常識であり、法に触れるケースでもあるのです。

とても有名な話ですが、シンガポールでのポイ捨ては重罪にあたります。違反してしまった場合、約8万円の罰金です。また、カジノで有名なアメリカ・ラスベガス。ホームレスに善意で何かを与

えた場合、6ヶ月の懲役になってしまいます。

当たり前ですが、日本人（異邦人）だからといって免除はありません。つい：が、旅先では法に触れてしまうのです。マナーやしきたりをしっかりと調べておきましょう。思わぬことで人生を狂わせてしまうかもしれません。

旅の仰天トラブル

旅には、普段の生活では考えもしない仰天トラブルが起こります。最近では、格安航空会社（以

下、LCC）のパイロット不足による欠航が思い浮かびます。「パイロットが不足しているのはそちらのせいじゃないか」と思いますが、何を言ってもパイロットがいなければ飛行機は飛びません。誰が航空会社でパイロットが不足すると考えたでしょうか。このように、普段、接することがないからこそ驚きのトラブルなのです。以下は、その代表事例です。

●予約したのに部屋がない

予約したのに、実際に現地に到着したら満室で部屋がない。ホテルなどで苦い経験をしたことがある方もいるでしょう。実は、宿泊予約は絶対安心とは言えないのです。それが、オーバーブッキング（過剰予約）の制度です。

業界では当たり前ですが、利用者にとっては、予約したのに部屋がないという仰天トラブルの一つです。制度としては、ホテルや旅館ではキャンセルが起きても最大数のお客様を確保できるよう、予約可能数以上の予約を受け付けて

います。ところが、キャンセルが起きなければ部屋に泊まらないお客様が出てしまうわけです。

もちろん部屋が無くなるというケースは珍しいことで、近隣のホテルや旅館に代わりの部屋を用意してくれることが通例です。とはいえ、過剰予約のシステムがある以上、あなたの身にも起こる可能性があります。万が一の時のために予約した宿泊場所以外にも、周辺にあるホテルや旅館を把握しておくことが重要です。

また、予約を取る際に「注意事項」を把握しましょう。過剰予約と、その対処について必ず明記してあります。場所によっては、次回使える割引券を渡されて終了のケースもあります。その場合、当日のお部屋はありません。

●カギの渡し間違え

「カギの渡し間違え、そんなことがあるのか」と思われるかもしれませんが、カギを渡す手順は人によって行われます。

通常のカギは部屋番号が明記し

下調べ不足で重要なミスに「HOLLY WOOD」はどこだ!?

下調べが必要なのは、なにも法律やマナーばかりではありません。訪れる土地のことをしっかりと調べておかないと、取り返しのつかない悔いを残します。

世界屈指の超人気観光地、アメリカ映画の都「ハリウッド」。どのガイドブックやウェブサイトを見ても紹介されており、カリフォルニア州ロサンゼルスを訪れる際には必ず押さえておきたい観光地です。ところが、一部では「ガッカリスポット」の一つとも言われてしまうほど、下調べが非常に重要な観光地です。



実は、高い建物に囲まれているハリウッドですが、その代名詞とも言われる「HOLLYWOOD」の文字看板はぜひ見ておきたいものです。ところが、そう簡単に見ることができないのが現実です。周りを囲む高い建物に妨げられてしまっており、メインストリートから文字看板を見るのはほぼ不可能。見るためには建物の3階以上に上がるか、ビューポイントを探し住宅地をさまよって歩くかのどちらかです。ショッピングモール「ハリウッド&ハイランド」がベストスポットですが、こちらは少々遠くて文字看板も小さくしか見えません。

ハリウッドで、もう一つの観光スポット、ハリウッドスターの名前と手形が刻まれたタイルと星形のプレートで有名な「チャイニーズ・シアター」。この人も、あの人もいいな…。なんてウキウキして行くだけでは、まず失敗します。



一体、何人分のプレートがあることでしょうか。どこに誰のプレートがあるのかもわからず、お目当てが見つからずに終わることもしばしばです。ある程度の目星をつけて行くことでお目当てのスターに近づくことはできますが、現地ですることになるのは間違いありません。探しても、探しても見つからず、ガッカリ感を味わって帰る「こんなはずじゃなかった…」と嘆かないためにも、しっかりと下調べをして出かけましょう。

てあるのでチェックしやすいのですが、カードキー方式は部屋番号の記載がなかったり、ケースに部屋番号が記載されていたりするので、手渡す段階で取り違えミスが発生します。

ちなみに、なぜカードキーには

部屋番号の記載がないのでしょうか？ それは、通常のカギは落としたときに音がして、すぐに気付きますが、カードキーは落としても音がしません。そのため、部屋番号の記載があると、落としたカードキーを使って部屋に入られて

しまう可能性があるからです。こんなエピソードがあります。チェックインした際に「504号室でございます」と言われ、カードキーと諸々の案内書類を手渡されエレベーターに乗り、何気なくケースの部屋番号を確認した

ところ、そこには「405号室」の文字が…。慌てて4階で降り、405号室へ向かいカードキーでドアを開けました。単なる聞き間違い、言い間違いの話ではありません。話はまだ続きます。

405号室に入ると、そこには無造作に開けられたスツーカーが…。もちろん部屋から飛び出しましたが、持っているのはカードキーでドアが開いたのは確かです。念のため書類に目を通してみると「504号室」の文字が…。いったいどういうことだ？



カードキータイプのカギは、受け取った時点で部屋番号を確認のこと

実は、カードキーのタイプによつては、受け渡しの際に毎回新しいカードキーを作ります。稀にですが部屋番号のデータ入力でミスが生じ、他の部屋のカギを渡してしまうことも起こるのです。逆の立場を想定して、部屋に居る際にはドアチェーンをすることを心がけましょう。

ホテルや旅館のカギは決して安全ではありません。ポーターや清掃員はマスターキーも持っています。元ホテルマンの著者が言うのですから間違いありません。

●置いてきぼりは当たり前

近年、LCCが日本人にも受け入れられはじめ、多くの方が利用するようになってきました。LCCの海外での歴史は意外と長く、諸外国の方々はバス感覚で慣れたものですが、日本人には仰天な出来事が盛り沢山です。

- ・座席の間隔が狭い
- ・荷物を預けると別料金がかかる
- ・機内の無料飲食サービスがない
- ・予備機がないため機体トラブル

が生じると、その機体で運航する予定の便がすべて欠航となるなどが挙げられますが、他、特に注意したいのが「平気で置いてきぼりにされる」ことです。日本人には驚きですが、これも運行スケジュールがギリギリ詰まり、大手航空会社の空港利用の間を縫うように滑走路を使うLCCならではの事です。

どんなに早くチェックインを済ませていても、予定時間に搭乗口にいるだけではなく、飛行機に乗っていないければ置いていかれてしまいます。例えばそれが搭乗口変更など、航空会社側の理由であつても同じです。大手の航空会社と同じ感覚でいると、とんでもないトラブルに巻き込まれてしまうのがLCCです。トランジット、到着後のバスや列車の予約は、必ず余裕をもつて準備をしてください。

隙を見せることでトラブルに

旅先のトラブルで一番厄介で遭遇したくないのが犯罪です。海外

では「平和ボケしている日本人が格好の標的」とされ、毎年多くの方がトラブルに巻き込まれています。しかしながら、絶対的な予防や対策がないのも事実で、犯罪の山口や起り方を知ること未だに防ぎしありません。

例えば、スペインのスリ。「スリ大国」と汚名を着せられるほど、とにかく神業的なスリを仕掛けてきます。中でも、バルセロナの観光名所「ランブラス通り」で日本人は餌食とされ、通りにある警察には毎日のように被害に遭った日本人観光客が訪れます。この話しを知るだけで、少なからず予防になるでしょう。

また、スリ対策のトラベルグッズも販売されているので活用して

みてはどうでしょう。「決して隙を見せないこと」が犯罪に巻き込まれないための一歩なのです。

「ジェイアイ傷害火災保険」が公開したデータによると、保険が絡むトラブルに千人中36人が巻き込まれているそうです。つまり4%弱。これは平均的な30名規模のツアーに参加した場合、グループのうち1人は保険が絡むトラブルに巻き込まれていることになりました。決して小さい数字ではありません。折角の海外旅行は、楽しかった思い出だけで満たされる様にしたくないものです。

・・・

今回は、これからあなたも体験できるかもしれない、旅の未来を覗いてみましょう。



海外旅行で口が開いたバッグは論外。スリの格好の餌食になるので、決して持ち歩かないこと

防犯用トラベルグッズは海外旅行者必携だ！

